



テクノパーク・なら工業団地運営協議会会長の田中妙子さん

## 29社を束ねるテクノパーク・なら工業団地運営協議会の新会長 柿の葉すし本舗たなか社長 田中妙子さんに聞く

**【会長就任の感想を。】**  
5月26日に就任したばかりです。今まで7年間、副会長としての活動をさせてもらいましたので、いよいよという感じで身の引き締まる思いであります。祖父（修司氏）も運営協議会の会長をさせてもらっていたので、健在の祖父と母（郁子会長）ともども感慨深い思いであります。

**【運営協議会が設立され31年経ちます。その役割**

通常であれば、5月に総会があつて、そこから事業所別対抗の体育大会をして

あとは献血や草刈り、ごみ捨て防止ネットの設置など。毎年明けには、来賓の方にお越しいただいて、情報交換も兼ねた新春懇親会があります。去年までは中止だったんですけど、今年からは少しずつ元の形に戻していくかなと思って

そこで、今年は研修旅行

5月26日に就任したばかりです。今まで7年間、副会長としての活動をさせてもらいましたので、いよいよという感じで身の引き締まる思いであります。祖父（修司氏）も運営協議会の

会長をさせてもらっていたので、健在の祖父と母（郁子会長）ともども感慨深い思いであります。

いたんです。コロナが続いているので、ここ3年は中止。その後、清掃活動をしたり、秋は交通安全推進大会が開催したり。ソフトボーラー大会もありましたが、今年も中止になっています。

あとで献血や草刈り、ごみ捨て防止ネットの設置など。毎年明けには、来賓の方にお越しいただいて、情報交換も兼ねた新春懇親会があります。去年までは中止だったんですけど、今

年からは少しずつ元の形に戻していくかなと思って

そこで、今年は研修旅行

五條市住川町の丘陵地帯に広がるテクノパーク・なら工業団地の立地企業でつくる「テクノパーク・なら工業団地運営協議会」の新会長に、株式会社柿の葉すし本舗たなか社長の田中妙子さん（44）が就任した。コロナ禍で数々の行事が中止となる中、共通課題でもある企業の人手確保に目をやり、工業団地内で「合同企業説明会の開催ができる」と意欲を示す。「たなか」も来年が創業120周年、法人化から50周年という大きな節目を迎える田中さんに話を聞いた。

### 【協同で取り組むようなことは。】

今は本当にどこの会社も人手不足な上に人が集まりにくいという問題を抱えています。もちろん、各社独自で対策を打たれて動かれているとは思っています。そこを一

つ、テクノパーク・なら工業団地といふことで、せつ

かくいろいろな会社が集まっているので、「合同企業説明会」を開催して、仕事を探している人向けにするのはいいのではないかと思っています。

そこに行けば、一度に29社回れるという、来られる

992年12月に移転して、操業を開始していることが残っています。

周辺にエルベタウンや旧の住宅地があります。ごみ

拾いや「青パト」といって

うのですが、私はその時は学生だった

のですけれど、平成4（1992）年に移転して、操業を開始していま

す。私はその時は学生だったのですけれど、平成4（1992）年に移転して、操業を開始していま

す。私はその時は学生だったのですけれど、平成4（1992）年に移転して、操業を開始していま